

情報実習科目における授業補佐の役割に関する実践報告

Report of Student Assistants' Roles in Practical Information Course

荒川聖悟, 城元宏美, 吉田典弘

Shogo Arakawa, Hiromi Shiromoto, Norihiro Yoshida

関西学院大学

Kwansei Gakuin University

あらまし：大学における情報教育が必要不可欠な昨今において、大人数の授業でも効率的に演習ができる環境づくりの一環として、本学では授業補佐 (Student Assistant) を採用している。SA は授業進行のサポートとして学生の質問への対応、資料の配布や回収、PC 不調への対応などを行っている。本報告では、2015 年度から引き続き実施している情報実習科目履修者へのアンケートの結果を報告する。

キーワード：情報リテラシー, 大人数授業, 授業補佐

1 はじめに

関西学院大学共通教育センターの情報科学科目においては SA(Student Assistant) を採用している。「コンピュータ基礎」で業務を勤めるなかで、SA と履修生がこの授業形態に満足しているのだろうか、ということに疑問を覚えたことが本発表の動機である。「コンピュータ基礎」は本学でも最大規模の 150 名が履修する科目であり、履修生・SA を対象としたアンケート調査から、大人数でも授業が問題なく運営できることを示す。そして 2015 年度に引き続き、「コンピュータ基礎」の授業満足度を継続調査・報告することによって情報教育への貢献を期待している。

実際に「コンピュータ基礎」が実施されている教室が図 1 である。本学における「コンピュータ基礎」は、を収容できる 2 つ教室を利用して実施している。教員は A 教室に常駐し、B 教室ではスピーカーとモニターが共有されている。学生への質問に対応するために A 教室 2 名、B 教室 3 名、合計 5 名 SA が配置されている。

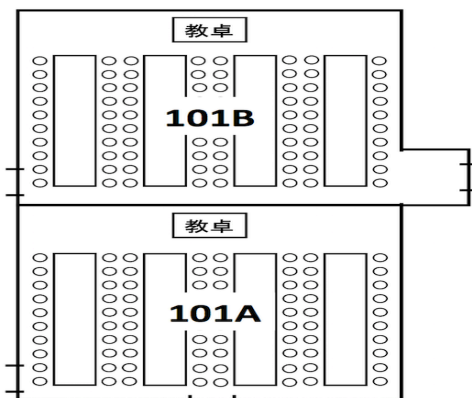


図 1: 「コンピュータ基礎」の授業が行われる教室の見取り図

2 2015 年度の調査結果

2015 年度の分析結果は以下の通りである。2015 年度のアンケートは 2015 年 12 月に実施した。

(1) 履修生や SA は教室が二つに分かれていることに大きな問題を感じていない。

(2) B 教室で受講しているのは上級学年、男性、友人とともに受講している履修生が多い。

(3) 最終試験における得点は A 教室と B 教室との間で差が見受けられなかった。(表 1)

(4) 8 割以上の履修生が SA を必要不可欠なものと考えている。

(5) 8 割以上の履修生に SA への質問経験があり、わずかに B 教室の方がその割合は大きいことがわかった。

3 2016 年度の調査結果

2015 年度に引き続き、2016 年度においても履修生の本科目におけるアンケート及び最終試験の分析結果を示す。なおアンケートと最終試験は 2016 年 7 月に実施しており、分析には R version 3.2.3 を利用している。

3.1 2016 年度の結果予測

2016 年度の分析においても、2015 年度と同等の結果が得られると予測した。

3.2 授業形態及び SA に対する評価

「教室が二つに別れていることに関してどのように思うか」についての履修者へのアンケート集計結果が図 2, SA へのアンケート集計結果が図 3 である。そして「SA は授業に必要不可欠だったか」についての履修者へのアンケート結果が図 4 である。授業サポートを行っている SA は分かれている教室について「質問しにく

いと思う」と考えている一方で、履修生は「特に気にならない」と考えていることが分かった。

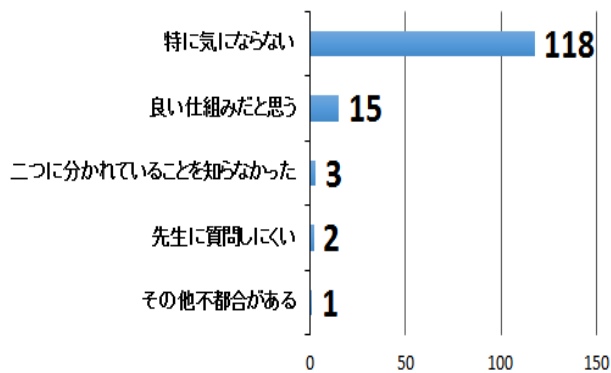


図 2: 二つに分かれている教室に対する履修生の意識

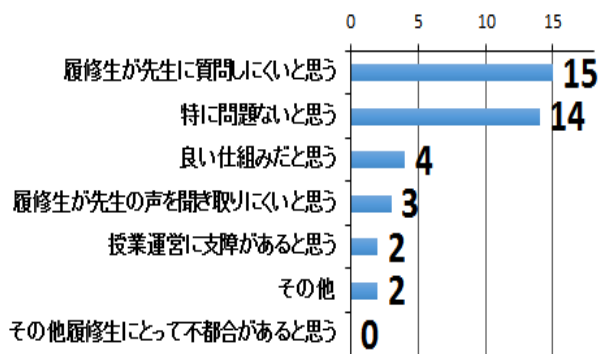


図 3: 二つに分かれている教室に対する SA の意識

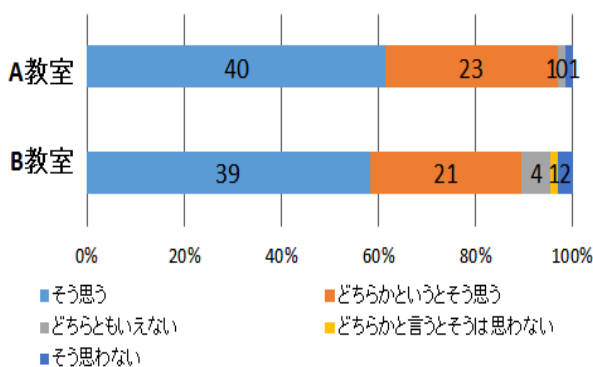


図 4: 履修生にとって SA は必要不可欠だったか

3.3 履修生の属性が試験得点に及ぼす影響

本科目の最終試験において教室の選択が点数に影響を与えているかについて分析した結果を表 1 と表 2 に示す。まず、2016 年度のデータを用いて最終試験の得点が教室・性別によって異なるかどうかを t 検定を用いて調べた。更に、学年別の分析には一元配置分散分析を

利用した。大方の予想通り、結果は 2015 年度とほぼ同様の結果となり、A 教室と B 教室の得点の差は有意水準 10%でも差がないことが分かった。

表 1: 2015 年度最終試験得点の比較

		サンプル数	M	SD	p 値
性別	男	83	82.58	13.21	0.010
	女	57	87.63	9.54	
教室	A 教室	66	84.79	11.90	0.889
	B 教室	74	84.50	12.31	
学年	1 年	103	84.28	13.03	0.890
	2 年	25	85.44	9.26	
	3 年	7	84.43	7.89	
	4 年	5	88.20	10.57	

表 2: 2016 年度最終試験得点の比較

		サンプル数	M	SD	p 値
性別	男	75	79.56	12.82	0.036
	女	67	83.60	9.85	
教室	A 教室	65	83.15	10.96	0.110
	B 教室	77	80.04	12.09	
学年	1 年	83	79.77	12.34	0.095
	2 年	50	83.14	10.72	
	3 年	8	87.13	5.82	
	4 年	1	93.00	NA	

4 分析結果の考察

- (1) 2015 年度同様、2016 年度の履修生も教室が二つであることに問題を感じていない。
- (2) 最終試験での教室別において得点の差は見られなかった。
- (3) 9 割以上の履修生が SA を必要不可欠なものと考えている。
- (4) 2016 年度最終試験の得点で、学年別の差が出ているが、これは入学して間もない時期であることが影響していると考えられる。

5 おわりに

本学における「コンピュータ基礎」の授業形態とその SA の役割を紹介した。アンケート結果によると教室による最終試験の結果から、大人数の演習であっても SA がいることによって授業運営に問題がないことが 2015 年度に引き続き分かった。

参考文献

- (1) 笹谷知輝, 西村幸一朗, 吉田典弘 "150 名履修の情報実習科目に置ける授業補佐の役割に関する実践報告", 情報処理学会 コンピュータと教育研究会 研究報告, CE-134-2, pp.1-8 (2016)